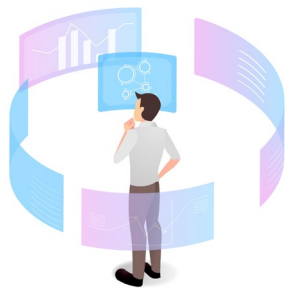


オープンラボ4 (6階)

臨床薬剤学研究室

- 患者さんの薬物治療やその副作用の中には、いまだに解決されていない事項があります。**医療や社会にある様々な課題**に対して、様々な手法で解決を目指しています。



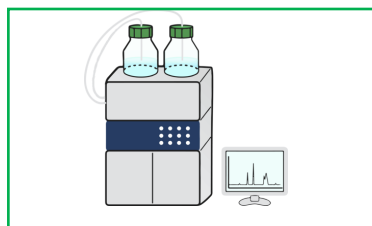
薬物動態学研究室

- 生体はどのように**異物**を見つけ、害のないものに変えて排除するか？を調べています。

培養細胞実験



薬物血中濃度測定



医薬品情報解析学 研究室

- 抗がん薬と支持療法薬*を**安心・安全**に患者さんが使えるように研究しています。

*支持療法薬：抗がん薬による副作用を予防・治療するための薬



Laboratory of Clinical Pharmaceutics

臨床薬剤学研究室

「データで支える臨床医療と社会の未来」

Professor : 加賀谷 肇 *Hajime Kasaya*

Associate Professor : 寺島 朝子 *Tomoko Terajima*

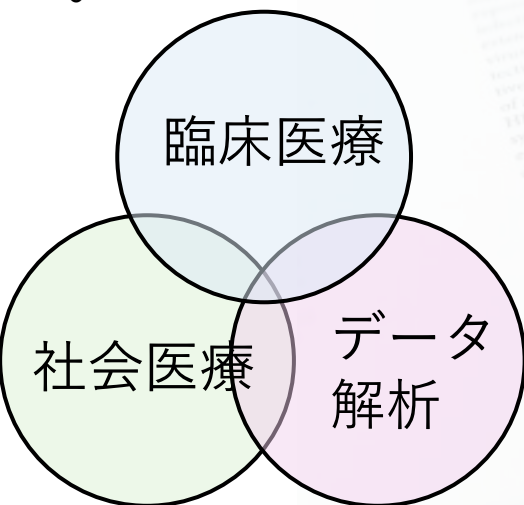
Assistant Professor : 細谷 龍一郎 *Ryunichiro
Horaya*



Laboratory of Clinical Pharmaceutics

臨床薬剤学研究室

臨床医療から得られたクリニカルクエッションや社会課題を様々なデータを駆使して薬剤師の視点で解決します。薬を必要とするすべての方へ貢献できる研究を目指しています。



<研究テーマ>

- ・ **緩和医療**における症状管理のためのエビデンス探索
- ・ **救急医療**における適切な薬物療法
- ・ **緊急避妊薬**の適正使用推進
- ・ **データベース**を用いた薬の安全性評価

薬物動態学研究室

Drug Metabolism and Pharmacokinetics

教授 佐野和美 & 准教授 小野塚真理

テーマ：分子標的薬の生体内運命を調べる

体外物質は「毒」とみなされ、生体は解毒化（代謝）して体外に排泄します

効果と副作用は裏表。副作用を回避する方法を考えます

副作用の予防・治療

アフアチニブ服用後の皮膚障

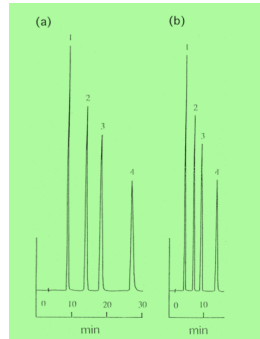


マウスの背中

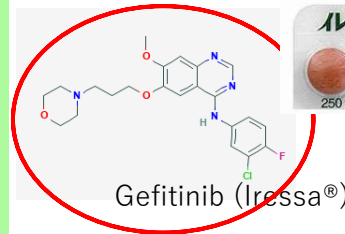
ミノサイクリン前処理で予防！



ミノサイクリン軟膏

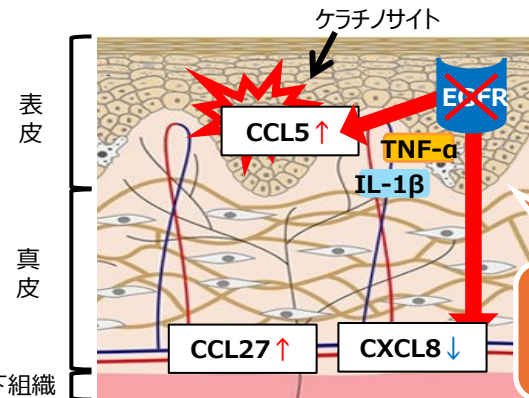


患者血中濃度測定



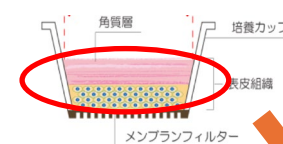
薬物血中濃度の変化を追跡して、適切な投与量を提案します

HPLC・LCMSで測定！

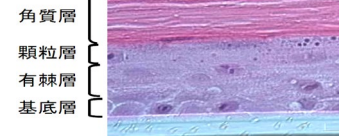


細胞レベルの実験で組織内の薬物分子の動きを追跡します

トランスポーター研究



多方面から総合的に結論を導き出します



薬物動態学研究室

Drug Metabolism and Pharmacokinetics

薬物治療の成功を導くために！

化学

解剖学

クスリ(：生体外異物として)の**実態**を見極めて、害のないものに変換；**薬物代謝**し、身体の外に**排泄**するしくみを研究しよう！

生化学

生理学

物理

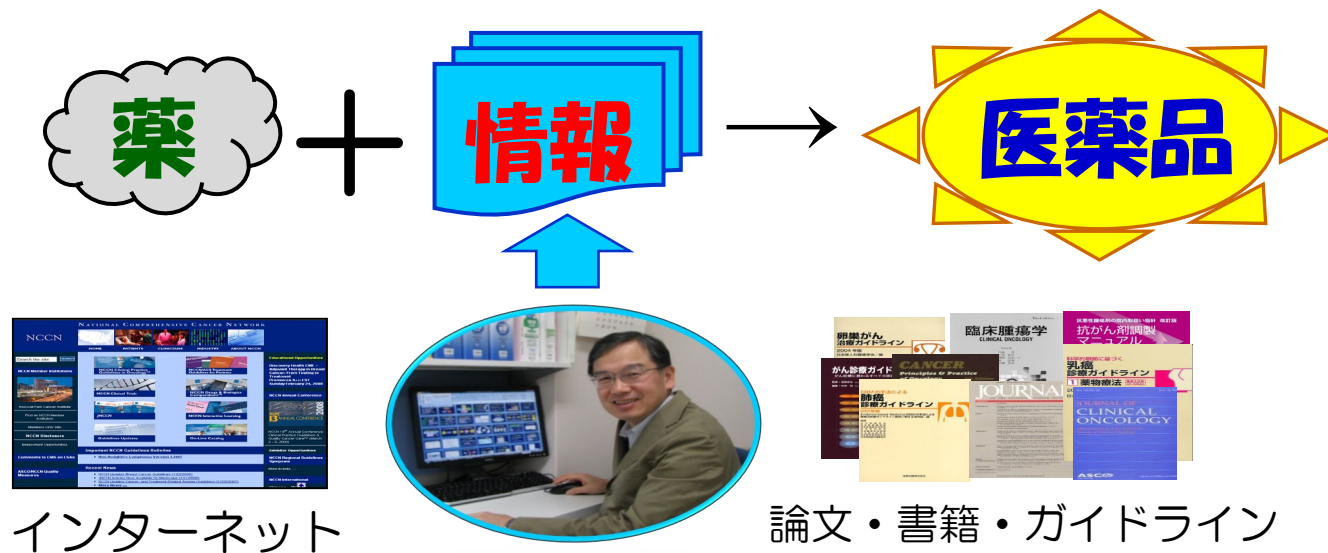
☆より良い薬物治療の実践のために！

医薬品情報解析学研究室

Drug Information Analytics

教授 加藤 裕久

“薬”は天然物から抽出されたり合成された化合物に、有効性と安全性に関する“情報”が加わり、特にヒトを対象とした臨床試験の結果から得られた“情報”などが付加されることにより、初めて安全な“医薬品”として患者さんへ提供されます。



医薬品情報解析学研究室

Drug Information Analytics

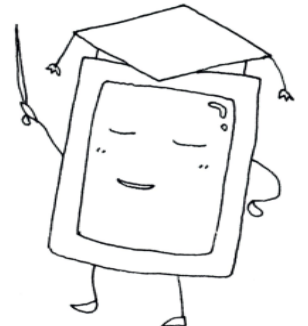
医薬品情報解析学研究室は、適切に“医薬品”を患者さんらに使用してもらうために、特に抗がん薬の適正使用に関する研究について、鋭意取り組んでいます。

主な研究テーマ

★ 抗がん薬に対する適切な支持療法に関する研究

抗がん薬による代表的な副作用

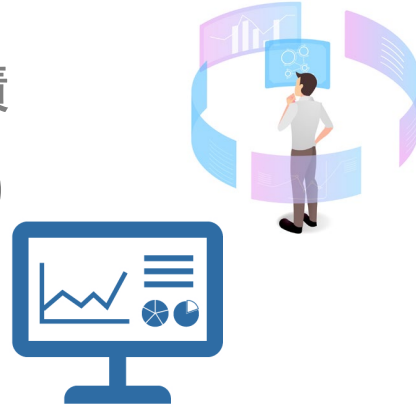
- 悪心・嘔吐
- 血管痛
- 骨髄抑制 など



6F オープンラボ ④

研究室で実際に行うこと

1. 社会データの集積、実験データの蓄積
2. 情報を処理する (PCでの統計解析等)
3. データ解析 → 考察 → まとめる
4. 発表する



培養細胞実験



教育目標

研究を通じて...

●論理的思考と問題解決能力

自分で問題を発見し、情報収集して、論理的に解決しよう！

●プレゼンテーション能力

患者さんへの情報提供発表や、チーム医療でも役に立つ！

